

令和4年度

運営に関する計画



最終評価

大阪市立池島小学校

大阪市立池島小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校地域は 2 か所の児童養護施設と付随する 2 か所の小規模施設を有し、虐待を含む様々な社会的養護を必要とする子どもが約 30% 在籍している。その多くの子どもは愛着障がい (AD) の傾向をしめしており、重複して ASD (自閉スペクトラム症) や LD (学力不振) 等の発達症をあわせ持っている。本来形成されるべき特定の人との愛着がうまく形成されず、感情の未発達・未学習を引き起こし、絆の問題を抱えることとなった子どもに対し、入学後に愛着形成を行う必要がある。これは施設の子どものみに限られた問題ではなく、一般家庭でも見られる状態である。さらに、特別支援学級在籍割合は 35% であり、個々の子どもに対する手厚い支援が必要である。こうした状況の子どもの自尊感情を高め、自己と共に他者を大切にすること心すなわち自己有用感を育てることは、本校にとって喫緊の課題である。

本校の地域は、児童養護施設の子どものに対する理解は深く、地域の子どものとして大切に育てている。施設側も地域と共に子どもを育てるという立場で子どもの育てに関わっている。

第 1 期、第 2 期大阪市教育振興基本計画のもと本校では、多くの成果をあげてきた。

【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校園・家庭・地域) の実現】においては下記である。

○いじめの解消率 100% を維持。

○「学校は仲間がいて、いじめをゆるさない安心できる場所だと思う。」に対する肯定的な回答の割合は、80% を上回った。

○「学校のきまり・規則を守っていますか」に対する肯定的な回答の割合は、90% を上回った。

○自尊感情や自己有用感に関しては、「自分には 1 つ以上よいところがある。」に対する肯定的な回答の割合は 80% を上回った。「誰かの役に立つ人間になりたい (高学年)」と回答する児童の割合は、90% を上回った。

○不登校の子どもが毎年 1 名以上出ており、登校できるようになってはいない。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】においては下記である。

○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較した時、3, 4, 6 年生は向上してきているが、3 年連続で 5 年生が低下傾向にある。(令和 3 年度 3 年生 91.7 4 年生 99.0 5 年生 96.5 6 年生 97.0)

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対する肯定的な割合は前年度より増加し、79.6%

○「すすんで漢字学習に取り組んだ」に対する肯定的な割合は 85%、漢字検定合格率は 75.3%

○令和 3 年度全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに平均正答率は大阪市を 6~7 ポイント下回っている。

○令和 3 年度全国体力運動能力、運動習慣等調査の結果、体力合計点は、男子は大阪市平均を上回り、全国平均はやや下回った。女子は大阪市平均とほぼ等しく、全国平均を下回る結果となった。

こうした現状と成果を踏まえ、新たな教育の方向性を導くために、第3期大阪市教育振興基本計画の3つの最重要項目から今後4年間取り組む課題を整理する。

安心安全な教育の推進

- 子どもと教員との愛着形成を図る。
本校の子どもにとって教員との愛着の形成は不可欠である。特に、学級担任、支援学級担当との愛着の形成を図り、感情の学習や他者との関係性づくりを進める。
- 自尊感情の向上を保障する。
学校のきまりを守る、自分の可能性に気づく、仲間と共に活躍する場を得る、自己の成長を感じる、他者から必要とされる、成功体験を繰り返す等の自尊感情を高める学校生活を保障する。
- 自他の命を守る力を育成する。
子どもの道徳性、社会性の育成に努め、自他の命を尊重し安全で安心な社会づくりに参加するための資質・能力を育てる。

未来を切り拓く学力・体力の向上

- 学習の基盤となる資質・能力を育成する。
すべての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である語彙を豊かにする。(読書、漢字)
- 授業の質的転換を図り授業力を向上する。
個別最適な学び(「個に応じた指導」(指導の個別化と学習の個性化)を学習者の視点から整理した概念)の一層の充実を図る。そのため、主体的・対話的で深い学びを実現する。同時に、探究的な学習や体験活動等を通じ、協働的な学びを実現する。
- 外国語活動、外国語科の授業の充実を図る。
C-NET、外部講師と外国語担当教員、担任との連携の強化を進める。「小学校低学年からの英語教育の時間」の確実な実践を積み重ねる。
- 自己の体力に関する理解を進め、主体的に運動する習慣を付ける。
体育科授業の実践記録の積み重ね、運動環境の充実、全校体力作りへの取組を行う。

学びを支える学習環境の充実

- 学習者用端末を使用した学習の日常化を図る。
協働学習支援ツールや学習用デジタルドリルの活用を一層充実させる。また、プログラミング学習年間指導計画に則った実践を積み重ねる。自己の体力に関する理解を進め、主体的に運動する習慣を付ける
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に基づいた働きやすい職場環境を整える。
- 長時間勤務の解消、年次有給休暇の取得率の向上を図る。
- 読書環境を整え、読書活動を推進することによって、本好きな子どもを育てる。

前述の課題を受けて、令和7年度末までに達成する中期目標を下記の通りとする。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度末の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3
73.5	中止	73.9

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

R1	R2	R3
0.71	1.60	1.80

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度(60.9%)より20%増加させる。

R1	R2	R3
70.6	中止	60.9

○令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。

R1	R2	R3
77.3	94.1	90.9

○令和7年度の校内調査の「災害や防災について、自分にも起こりうる事と考えて行動できた」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。

R1	R2	R3
34.4	36.7	42.6

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において

経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上し 1.00 以上にする。

	国語				算数			
	H30	R1	R2	R3	H30	R1	R2	R3
現 6 年生	全国値 なし	0.87	0.91	0.86	全国値 なし	0.91	0.83	0.89
現 5 年生		0.85	0.86	0.89		0.95	0.92	0.77
現 4 年生			0.95	0.88			0.96	0.90
現 3 年生				0.77				0.73

○令和 7 年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。

R1	R2	R3
63.0	64.2	67.8

○令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 80%以上にする。

R1	R2	R3
79.7	中止	79.5

○規則正しい生活を身に付けている児童の割合（令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合）を 70%、80%以上にする。

	R1	R2	R3
寝ている	67.6	中止	60.9
起きている	85.3	中止	78.3

【学びを支える教育環境の充実】

○令和 7 年度の校内調査の、「授業の中で学習者用端末を活用して学習している」の項目（協働学習支援ツール、デジタルドリルを含む）について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、80%以上にする。

○令和 7 年度の校内調査の、「学習者用端末を活用して発表することができますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

○令和 7 年度の校内調査の、「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

○令和 7 年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

○令和 7 年度の保護者アンケートの「お子様との会話や学校からの手紙、連絡等で学校でのお子様の様子がよくわかりますか」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、90%以上にする。

○ゆとりの日を毎週 1 回以上設定する。

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 100%にする。

（基準 2 とは、時間外勤務が年間 720 時間以下、月 45 時間を超える月数 6 月以下、月 100 時間を超える月数 0、前 2～6 か月の平均が 80 時間を超える月数 0）

2 中期目標の達成に向けた令和4年度目標

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **75%**以上にする。

R1	R2	R3	R4
73.5	中止	73.9	67

○令和4年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

R1	R2	R3	R4
0.71	1.60	0.88	0.99

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

○小学校学力経年調査及び年度末の校内調査の「学校に行くのは楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合をいずれも **80%**以上にする。

	R1	R2	R3	R4
経年	79.4	82.8	73.7	72.0
校内	77.3	85.7	85.5	86.0

○年度末の校内調査において、「自分には1つ以上よいところがある。」と肯定的な回答をする児童の割合を **80%**以上にする。

R1	R2	R3	R4
68	83	79	82

○令和4年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度より **5%増加させる**。

R1	R2	R3	R4
70.6	中止	60.9	86.9

○年度末の校内調査において、「いじめは絶対に許されないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を **60%**以上にする。

R1	R2	R3	R4
45	47	58	77

○年度末の校内調査において、「学校や学級のきまり（約束）を守っていますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を **60%以上**にする。

R1	R2	R3	R4
53	64	58	58

○令和4年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を **90%以上**にする。

R1	R2	R3	R4
77.3	94.1	90.9	85.9

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **40%以上**にする。

R1	R2	R3	R4
34.4	36.7	42.6	27.2

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **0.05 ポイント**向上させる。

	国語					算数				
	H30	R1	R2	R3	R4	H30	R1	R2	R3	R4
現6年生	なし	0.87	0.91	0.86		なし	0.91	0.83	0.89	
現5年生		0.85	0.86	0.89			0.95	0.92	0.77	
現4年生			0.95	0.88				0.96	0.90	
現3年生				0.77					0.73	

○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **65%以上**にする。

R1	R2	R3	R4
63.0	64.2	67.8	68.4

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を **80%**以上にする。

R1	R2	R3	R4
79.7	中止	79.5	86.0

○規則正しい生活を身に付けている児童の割合（令和4年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合）を **65%、75%**以上にする。

	R1	R2	R3	R4
寝ている	67.6	中止	60.9	65.2
起きている	85.3	中止	78.3	82.6

学校園の年度目標

○年度末の校内調査において、「漢字の学習をがんばった」と回答する児童の割合を **85%**以上にする。

R1	R2	R3	R4
82	91	85	88

○年度末の校内調査において、「算数の文章問題をがんばった」と回答する児童を **75%**以上にする。問題解決型の授業改善、池島タイムの運用を工夫する。

R1	R2	R3	R4
			90

○年度末の校内調査において、「授業は工夫されていて、わかりやすい」と回答する児童の割合を **85%**以上にする

R1	R2	R3	R4
82	95	89	92

○年度末の校内調査において、「いろいろな教科などで、自分で考えたことを文章に表す活動がんばりましたか」と回答する児童の割合を **85%**以上にする。

R1	R2	R3	R4
74	90	88	87

○年度末の校内調査において、「いろいろな運動に挑戦した」と回答する児童の割合を **85%**以上にする。

R1	R2	R3	R4
	83	86	89

○規則正しい生活を身に付けている児童の割合（令和4年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合）を **65%、80%**以上にする。

	R1	R2	R3	R4
寝ている	67.6	中止	60.9	65.2
起きている	85.3	中止	78.3	82.6

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

○年度末の校内調査の、「授業の中で、学習者用端末を活用して学習している。」の項目（協働学習支援ツール、デジタルドリルを含む）について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、**70%**以上にする。

R1	R2	R3	R4
			93

○ゆとりの日を毎週1回以上設定する。

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を100%にする。

（基準2とは、時間外勤務が年間720時間以下、月45時間を超える月数6月以下、月100時間を超える月数0、前2～6か月の平均が80時間を超える月数0）

	4月	5月	6月	7/8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
基準1	92	92	88	88	88	80	80	80		
基準2	100	100	100	100	100	100	100	100	100	

学校園の年度目標

○年度末の校内調査の、「あなたは、学習者用端末を活用して発表できましたか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を **70%**以上にする。

R1	R2	R3	R4
			86

○年度末の校内調査の、「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する

児童の割合を 70%以上にする。

R1	R2	R3	R4
			75

○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75% 以上にする。

R1	R2	R3	R4
82	72	76	72.1

○年度末の保護者アンケートの「学校は保護者や地域の方に学校での子どもたちの様子を十分に伝えていると思われますか。」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、90%以上にする。

R1	R2	R3	R4
			95

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- 不登校児童に関しては、コロナ禍の当初4年生であった児童が、2年半に渡り登校できていない。年度ごとの担任は、こまめに家庭訪問をすることで保護者や児童との関係をつないできている。現状では、管理職と保護者間でメールをやり取りし、卒業に向けた取組に協力をしてもらっている。進学中学校では登校をするという決意も確認できている。
SSW、子どもサポートネット、地域児童員とも連携し対応を進めているが、登校までには至らなかった。
- 「いじめ」アンケートでは、25件のいじめ事案を確認できている。担任の聞き取りやていねいな指導の成果もあり、現状では解消率は100%である。当該児童以外の児童からの訴えもすべて丁寧な生活指導を行っており、早期解決ができている。また、「いじめの日」での指導をはじめ、特別の教科道徳の時間や人権学習で「いじめ」そのものを考えさせ、自分以外の人に対する考え方の育成、人権感覚の向上などをめざし学習をおこなっている。心の天気の確認も行い、児童の心の揺れを見逃さないように心がけている。
- 校内調査において、「学校や学級のきまり（約束）を守っていますか。」に対して肯定的な回答をする児童は91%であり、大阪市学力経年調査でも89.9%の児童が肯定的な回答をしている。しかし、「最も肯定的な回答」となると58%にとどまり、積極的な意味でのきまりをまもるには至らなかったと考えられる。
- 自己肯定感はかなり高まっているといえる。全国学力学習状況調査の結果では86.9%、大阪市学力経年調査の結果では82.9%、校内調査では82%の児童が肯定的な回答をしている。日々教職員が児童の愛着形成に努力をしている成果であり、児童の生き辛さを理解しようと研修を受けたり、児童養護施設との連携を深めたり、全児童に対して共通した関りを進めてきた成果といえる。仲間づくりに関しても、縦割り班を活用し他学年との交流の場を広めており、高学年は自覚をもって低学年の児童と関わるようになった。
教職員は「いいとこさがし」を実践し、SKIPに記載したり、「今日のキラリさん」「褒め言葉のシャワー」「言われてうれしい言葉を使う週間」などの実践をおこなったりし、児童のもつ素晴らし

い面をたくさん取りあげるようにしている。

自己有能感の面では、「人の役に立つ人間になりたいですか」に対して大阪市学力経年調査では85.9%、校内調査では90%の児童が肯定的な回答をしている。高学年では、自分の未来の姿を意識した思考とつながってきたものと考えられる。

〈今後の課題〉

引き続き、学校経営理念として掲げた「モチベーション3.0（内発的動機付け）」

すなわち、興味、好奇心、才能の開花、自己の成長、キャリア意識、達成感、他の仲間、更には地域社会への貢献意識を中心にした動機付け法による児童の成長に至るためにエビデンスに基づく指導法を工夫する。

人に備わる、「有能感」「自律性」「関係性」という3つの心理的要求に応えることができるような学校行事、日々の指導、児童とのかかわり方について研修を深める。児童の内面に寄り添い、心理的要求が満たされるように、よりいっそう環境を整え、内発的動機付けを発揮できるようにする。

加えて「ウェルビーイング」な学校づくりの実行を進める。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較したところ下記のような結果であった。

	国語					算数				
	H30	R1	R2	R3	R4	H30	R1	R2	R3	R4
現中1生	なし	0.87	0.91	0.86		なし	0.91	0.83	0.89	
現6年生		0.85	0.86	0.89	0.90		0.95	0.92	0.77	0.73
現5年生			0.95	0.88	0.93			0.96	0.90	0.89
現4年生				0.77	0.81				0.73	0.68
現3年生					0.72					0.74

いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させるところに目標を置いていたが、国語で4年生5年生がほぼ達成できた。国語は研究の成果もあり、向上しているが算数においてはまだまだ学習方法を含めて考慮する必要がある。

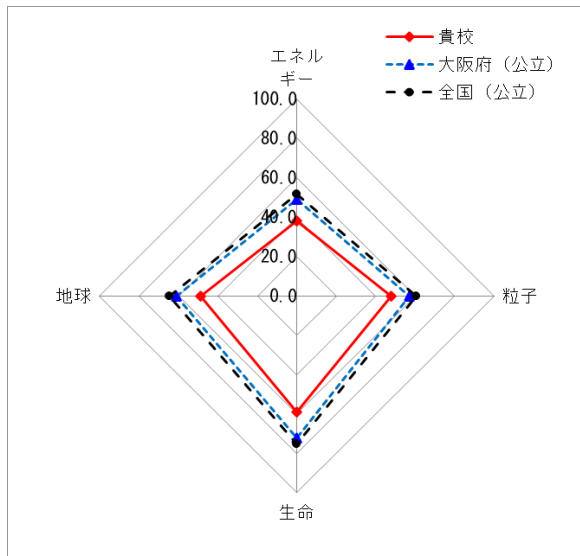
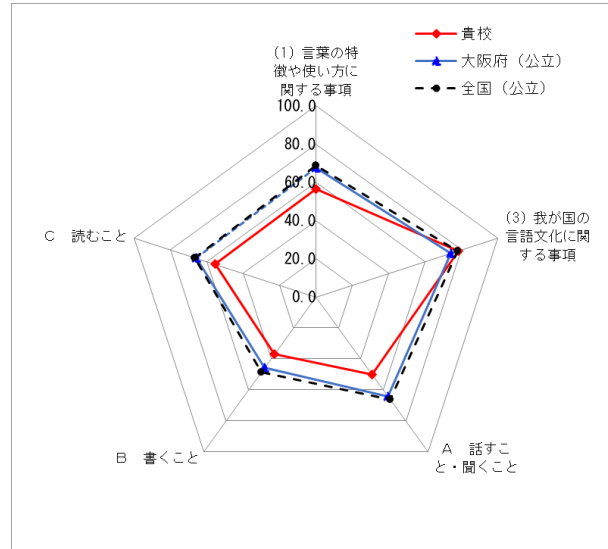
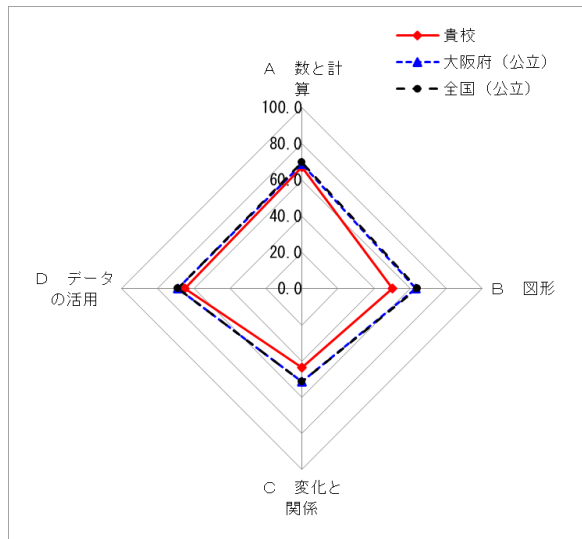
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合は、27.2%と目標を下回った。「土地たかといえは当てはまる」を含めた肯定的な回答が76.6%であり前年より3ポイント下がっているものの一定の高まりは見取れる。しかし、「考えを深め、広める」状態を具体的に体感できるようには至っていないのではないかと考えられる。
- 外国語に対する関心は中学年ほど高く、高学年になるほど下がる傾向にある。これは4技能（聞く・読む・話す・書く）のうち、話す・書く技能を求められることにより英語離れの現象が起きているのではないかと推測できる。本校では、低学年からの外国語学習は毎週水曜日と金曜日の朝の時間に20分ずつ行っている。また、民間の英語学習塾の講師を招聘し、1、2年生に体験的に英語を学ばせる機会を設けている。今後これらの成果が出てくることを期待している。

- 漢字検定への取組では、自分の今の漢字力を理解し、合格を目指す級を選定し、そのために漢字の勉強をする。こうしたメタ認知できる力は重要な非認知面の力である。児童は、朝学習や家庭学習で漢字検定の勉強を自学自習が当たり前になっている。自分の目指す級に合格したいという意欲の向上につながってきている。ここ数年の合格率は70%を越えていたが、今年度は51%であった。これは、受検級が向上することで難しさが増すことが要因と考える。

令和4年度 漢字検定 本試験受検者数・合格者数								
実施日 1月20日(3学期本試験)								
上段…受検者数 下段…合格者数								
	10級	9級	8級	7級	6級	5級	合計	合格率
1年1組	11						11	45%
	5						5	
2年1組	4	10					14	50%
	3	4					7	
3年1組		5	9				14	29%
		0	4				4	
4年1組		5	9	6			20	50%
		3	2	5			10	
5年1組		1	1	2	5	1	10	70%
		0	0	2	4	1	7	
6年1組			1	6	3	12	22	59%
			0	3	0	10	13	
合計	15	21	20	14	8	13	91	
	8	7	6	10	4	11	46	
合格率	53%	33%	30%	71%	50%	85%	51%	

- 令和4年度学力・学習状況調査の分析は以下の通り。
 大阪市と比較すると、国語-10、算数-6、理科-11 ポイント下回っている。以前、国語については正答数分布グラフが左に偏っている。算数、理科ではグラフが右に寄ってきており、これまでの学習の成果が出つつあると考える。児童質問紙の設問7、8から窺えるように指導者の肯定的な声かけを中心に自尊感情の向上に努めてきた成果も見えてきている。設問32、33、34の回答を見ると、学習者用端末を先行的に活用し、デジタルドリルやプログラミング学習に対する児童の体験を重ねてきた成果であるといえる。設問11にあるように「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する」との回答が大阪市や全国の平均を上回っていることから新たな学びに対する経験によるものであると考える。
 [国語] 知識・技能の面での資質・能力の基礎となる学力の育成は進んでいる。特に「我が国の言語文化に関する事項」では全国平均を上回る結果となった。第1ブロックで取り組んでいる漢字検定への学習の成果が出ているともいえる。しかし、思考・判断・表現のうち「書くこと」の正答率が低く、文章表現を適切にするとといった力が十分とは言えない。
 [算数] 「データの活用」「数と計算」の分野で全国平均に迫る正答率が見られる。これも、知識及び技能の面での学力の育成が進んできた成果といえる。デジタルドリルやブロック予算で購入した学習ドリルによる日々の学習の成果である。反面、割合を使う問題が苦手で、正答率が伸び悩んでいる。
 [理科] 知識・技能での正答率が比較的高いが、選択式の設問に対してであることが見えた。選択肢が準備されていることで安心感があると考えられる。記述式で、思考・判断・表現を必要とする設問は苦手である。問題解決型の学習による思考の仕方が十分に身につけていないと考えられる。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



- 昨年から国語「説明的文章」の読解から表現までの研究を進めている。児童の学びに向かう意欲を高める実践を中心に進めてきた。加えて今年度は、児童と教員の学びを評価する目的でルーブリックを明確に位置付け、パフォーマンス課題を表現の一つとして研究を進めている。和歌山信愛大学の小林教授に引き続き指導を受け、授業改善が着実に進んでいる。また、日々の教材研究の積み重ね、指導材の共有の強化といった教員の努力の結果、校内調査の、「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した児童の割合は、年度末においては92%の児童が肯定的な回答をしている。
- 令和4年度全国体力運動能力、運動習慣等調査の分析は以下の通り。
(母体数が少ないため参考)

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	13.00	18.00	27.50	38.00	52.00	9.90	132.50	14.00	46.00
大阪市	16.11	18.44	33.14	38.26	42.95	9.59	148.22	20.07	50.83
全国	16.21	18.86	33.97	40.36	45.92	9.53	150.83	20.31	52.28
女子	14.89	21.22	41.22	43.44	46.22	9.48	153.89	20.56	60.89
大阪市	16.01	17.55	38.00	36.50	34.13	9.76	140.76	12.77	52.65
全国	16.10	17.97	38.18	38.66	36.97	9.70	144.55	13.17	54.31

はじめに、本年度の本校5年生児童の全国体力・運動能力、運動習慣等調査は男子2人、女子9人の計11人を調査したものである。したがって、統計的に大阪市平均と全国平均と比較するには資料不足であることが前提である。

体力合計点は、男子は大阪市・全国平均ともに下回った。女子は大阪市・全国平均ともに大幅に上回った。種目ごとに見ると、男子は20mシャトルラン以外、女子は握力が平均を下回った。反対に女子は握力以外の種目は平均を上回り、特に立ち幅跳びとソフトボール投げは顕著であった。

児童への運動に関するアンケート調査において、「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問に対し、男子は1人が「好き」・1人が「やや好き」と回答した。女子は6人が「好き」・2人が「やや好き」・1人が「ややきらい」と回答した。また、1週間の総運動時間が60分未満の児童は、男子は0人、女子は1人であった。

本校では、昨年度から引き続き、休み時間に児童が外で体を動かして遊ぶ時間を増やす取り組みを2つ行った。「なわとび月間やかけ足月間を設定する」「教職員が積極的に児童と遊ぶ」である。その結果、年度当初から多くの児童が外で遊ぶ姿が見られ、その数は全校児童の7割以上に達することも多々あった。

体育の授業でも、昨年度から引き継いでいる授業づくりと場づくりの記録を参考にし、各学年が児童の実態に合わせた授業を実施した。低学年では、ボールを強く遠くに投げる運動に力を入れて取り組んだ。中学年では、持久力を向上させるために、運動場を周回する持久走においてワークシートを使用し、ラップタイムを記録し続けた。それにより一定のペースを保って走り続けられる児童が増えた。高学年では、準備運動後に投げる・走る・上る・跳ぶ運動を取り入れたサーキット運動を継続的に行い、講堂での授業の際には、一人・ペア・4人組で行う様々な柔軟運動に取り組んだ。

本校は年々児童数が減少しており、10人前後の学年も複数ある。したがって、統計から得られる課題は毎年大きく変わる。そのような状況の中でも、児童の基礎体力を向上させるために、現在行っている外で遊ぶことを推奨することや上記したような体育授業の充実を図る必要がある。また、各学年の運動能力的課題を指導者が把握し、その課題克服に向けた最適な体育活動を行っていく。

<今後の課題>

更なる問題解決型授業の工夫、学習者用端末をより効果的に児童に使いわせるための工夫、プログラミング教育の継続した学び、エビデンスに基づく学力分析、指導法の分析等を進める。国語科では文章を読み取る力の向上にさらに取り組み、ループリックを明確に児童と共有するように努めるとともに、パフォーマンス課題作成への道のりの指導を進める。同時に読書の習慣化を図り、読書量を増やせる手立てを講じる。さらに、研究を深め児童の学力の向上につながると考え、理解をもたらすループリックの作成を進めていく。

同時に、SST（ソーシャルスキルトレーニング）やコグトレといった認知機能強化トレーニングを取り入れ、毎日、毎体育の時間、池島タイムにゲーム感覚で取り組めるようにする。

体力向上は、新型コロナウイルス感染症予防に留意しつつ、運動環境の更なる充実とともに課題解決を伴う体育授業の質の向上を図る。加えて、運動習慣が高まるように、かけあし、なわとび等の業間運

動の運営方法の見直しを図る。

【学びを支える教育環境の充実】

- 年度末の校内調査の、「授業の中で、学習者用端末を活用して学習している。」の項目（協働学支援ツール、デジタルドリルを含む）について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合が91%と非常に高い結果となった。これは、SKIP ポータルの心の天気の入力が定着してきたこと、教科学習のまとめのスライドづくりの学習が増加したこと、デジタルドリルの活用が増えたこと、プログラミング学習の時間が計画的に進んだことなどが要因として考えられる。

これらのこともあり年度末の校内調査の、「あなたは、学習者用端末を活用して発表できましたか。」の項目について、肯定的に回答した児童は86%、「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答した児童は75%と目標を上回った。

学習者用端末 年間活用率表

池島小学校

								令和5年			年間活用率
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
月間活用率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%				▲
月間活用率	69.8%	66.5%	49.8%	65.4%	70.2%	60.4%	58.1%				▲

- 学校園における働き方改革に関しては、基準2を100%達成できたが、基準1は昨年度よりも達成率が下がっている。一部に勤務時間を越えている教員がいることは否定できない。しかし、教員用端末を持ち帰り業務をしている教員もあり、教員の勤務時間の削減にはまだまだ課題が多いと考える。

〈今後の課題〉

学習者用端末を使用する時間や機会は確実に増加している。しかし、今後は使用による学習効果があがるように勧めていく必要がある。また、端末そのものが児童の健康面や発達面への影響を考慮し、様々な研究成果を参考にしながらすすめていく必要がある。また図書環境の整備を引き続き進めるとともに、児童がもっと読書を楽しめるような工夫が必要である。

教員の働き方改革も引き続き推進し、教員も「ウェルビーイング」な職場となるように改革を進めていく必要がある。

大阪市立池島小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標					達成状況
【安全・安心な教育の推進】					B
全市共通目標（小・中学校）					
○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 75%以上 にする。					
R1	R2	R3	R4		
73.5	中止	73.9	67		
○令和4年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。					
H30	R1	R2	R3	R4	
0.60	0.71	1.60	0.88	0.99	
○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。					
学校園の年度目標					
○小学校学力経年調査及び年度末の校内調査の「学校に行くのは楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合をいずれも 80%以上 にする。					
	R1	R2	R3	R4	
経年	79.4	82.8	73.7	72	
校内	77.3	85.7	85.5	86	
○年度末の校内調査において、「自分には1つ以上よいところがある。」と肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上 にする。					
R1	R2	R3	R4		
68	83	79	82		
○令和4年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度より 5%増加 させる。					
R1	R2	R3	R4		
70.6	中止	60.9	82.9		

<p>○年度末の校内調査において、「いじめは絶対に許されないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「<u>そう思う</u>」と回答する児童の割合を 75%以上にする。</p> <table border="1"> <tr> <th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th></tr> <tr> <td>45</td><td>47</td><td>58</td><td>77</td></tr> </table> <p>○年度末の校内調査において、「学校や学級のきまり（約束）を守っていますか。」に対して、最も肯定的な「<u>そう思う</u>」と回答する児童の割合を 60%以上にする。</p> <table border="1"> <tr> <th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th></tr> <tr> <td>53</td><td>64</td><td>58</td><td>58</td></tr> </table> <p>○令和4年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。</p> <table border="1"> <tr> <th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th></tr> <tr> <td>77.3</td><td>94.1</td><td>90.9</td><td>85.9</td></tr> </table>				R1	R2	R3	R4	45	47	58	77	R1	R2	R3	R4	53	64	58	58	R1	R2	R3	R4	77.3	94.1	90.9	85.9
R1	R2	R3	R4																								
45	47	58	77																								
R1	R2	R3	R4																								
53	64	58	58																								
R1	R2	R3	R4																								
77.3	94.1	90.9	85.9																								

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1－1 いじめへの対応】</p> <p>○「いじめについて考える日」を設定し、全校朝会での指導・各学級での指導を行う。</p> <p>○各学年、いじめに関する道徳教材に年に1度以上取り組む。</p> <p>○委員会活動等でいじめを許さないことを啓発するポスターを作ったり、呼びかけたりする活動を行う。</p> <p>○「チャイムの合図を守る」「廊下階段右側歩行」などの学校のきまりに基づく強調週間を年に2回設定する。きまりは、「①チャイムが鳴ったら、すぐに行動しよう・②廊下は、右側を歩こう」の2つに絞る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○本校実施のアンケート調査における「いじめは絶対に許されないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「<u>思う</u>」と回答する児童の割合を 75%以上にする。</p> <p>○本校実施のアンケート調査における「学校や学級のきまりをまもっている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【2－3 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>○学年に応じて、各学級で児童が友だちの良いところを伝え合い、互いを認め合う取り組みを行う。</p> <p>○人権学習や特別の教科道徳で扱う福祉の学習を行い、困っている人や助けを必要としている人の存在を児童が気付けるようにし、自分たちにできることを考えられるようにする。</p>	B

<p>指標</p> <p>○本校実施のアンケート調査における「自分には1つ以上よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○福祉学習と人権教育の二つを各学年、年1回以上行う。</p>	
<p>取組内容③【2－3 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>○児童会が中心となって、たてわり班を生かす集会やいけっこまつりを行うことで、児童が他学年と交流、活動し、仲間づくりをすすめる。</p>	B
<p>指標</p> <p>○本校実施のアンケート調査における「学校に行くのは楽しいですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①について</p> <p>○「いじめについて考える日」を設定し、全校朝会での全体指導と各学級で実態に応じた学習・指導を行った。</p> <p>○各学年、いじめに関する道徳教材に1回以上取り組んだ。</p> <p>○9月に「なかよしウィーク」を実施した。相手を思いやる気持ちを意識させることでいじめ防止の効果を期待していた。校内調査における「いじめは絶対に許されないことだと思いますか」について最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は77%で目標を達成した。</p> <p>○12月に「チャイムの合図を守る」、1月に「廊下階段右側歩行」の学校のきまりに基づく強調週間を実施した。校内調査における「学校のきまりをまもっている」に対して、肯定的に回答した児童の割合は91%で目標を1ポイント上回った。</p> <p>取り組み内容②について</p> <p>○「いいところみつけ」や「今日のキラリさん」、「誉め言葉のシャワー」などの各学級での取り組みに加え、児童会で「言われたらうれしい言葉を使おう」という週間を設定し、全校で取り組むことができた。その結果、校内調査における「自分には1つ以上よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合は82%で目標を2ポイント上回っている。</p> <p>○人権教育や特別の教科道徳での福祉に関する学習を各学年で取り組んだ。また、3年生では盲導犬体験をし、4年生では福祉体験学習を地域と協力しておこなうことができた。</p> <p>取り組み内容③について</p> <p>○月1回たてわり班を生かす集会をし、他学年で協力するクイズを行うなど、集会の内容についても工夫することができた。また、児童会が中心となっていけっこまつりを行った。これらの活動により、児童が他学年と交流・活動し、仲間づくりをすすめられた。また、中間評価で否定的な回答をしていた児童への聞き取りを行い、そこで出た課題に対する取り組みを各学級で行った。その結果、校内調査における「学校に行くのは楽しいですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合は86%で、目標を6ポイント上回った。</p>

次年度への改善点

取組内容①について

- いじめに関する指導はいじめ0(ゼロ)を目指し、来年度も本年度の取り組みを継続しつつ、「いじめ」という言葉を使わずとも、相手を思いやった行動について日常的に指導していく。また、校内調査において否定的な回答をした児童に対し、個人面談の機会を設け、思いや考えを聞き取る。
- 学校のきまりを守ることにについては全校児童が学校のきまりはしっかりと理解し、きまりを守った行動ができている。しかしながら、登下校中や放課後の過ごし方などの学校の外でのきまりを守れていないことが度々あったので、来年度以降はその部分についても計画的な指導を行っていく必要がある。

取組内容②について

- 否定的な回答をしている児童の実態を調べ、どのような取り組みをしていくか検討する。また、普段からの「ほめ言葉のシャワー」などに教員も加わり、大人からも見てもらっているという安心感につなげる。
- 来年度も年間指導計画に沿って人権教育や福祉の学習に取り組み、人権尊重の態度や助けを必要としている人に対して自分たちにできることを考えるための素地を養う。

取組内容③について

- コロナの影響でできなかったたてわり班活動やたてわり清掃など毎日の生活にも異学年交流を取り入れることで、引き続きたてわり班の交流をすすめる。また、困り感を持った児童に寄り添って改善方法を一緒に考えるなど、児童が学校生活を楽しめるような取り組みを考えていく。

大阪市立池島小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標					達成状況				
【未来を切り拓く学力・体力の向上】					B				
全市共通目標（小・中学校）									
○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。									
R1	R2	R3	R4						
34.4	36.7	42.6	27.2						
○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.05 ポイント向上させる。									
	国語					算数			
	H30	R1	R2	R3		H30	R1	R2	R3
現6年生	全国値なし	0.87	0.91	0.86		全国値なし	0.91	0.83	0.89
現5年生		0.85	0.86	0.89			0.95	0.92	0.77
現4年生			0.95	0.88			0.96	0.90	
現3年生				0.77				0.73	
○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。									
R1	R2	R3	R4						
63.0	64.2	67.8	69.7						
○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 80%以上にする。									
R1	R2	R3	R4						
79.7	中止	79.5	67.4						
○規則正しい生活を身に付けている児童の割合（令和 4 年度の全国学力・学習状況調査									

の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合)を **65%、75%以上**にする。

	R1	R2	R3
寝ている	67.6	中止	60.9
起きている	85.3	中止	78.3

学校園の年度目標

○年度末の校内調査において、「漢字の学習をがんばった」と回答する児童の割合を **85%以上**にする。

R1	R2	R3	R4
82	91	85	89

○年度末の校内調査において、「算数の文章問題をがんばった」と回答する児童を **75%以上**にする。問題解決型の授業改善、池島タイムの運用を工夫する。

R1	R2	R3	R4
			90

○年度末の校内調査において、「授業は、工夫されていてわかりやすい」と回答する児童の割合を **85%以上**にする

R1	R2	R3	R4
82	95	89	92

○年度末の校内調査において、「いろいろな教科などで、自分で考えたことを文章に表す活動がんばりましたか」と回答する児童の割合を **85%以上**にする。

R1	R2	R3	R4
74	90	88	87

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【４－１ 言語活動・理数教育の充実（思考力・判断力・表現力等の育成）】</p> <p>○言語力育成のための基礎となる読書や漢字練習をする朝学習の時間を設定する。</p> <p>○学習活動全般を通して、分かったことや自分の考えを文章にまとめる機会を多く設定する。</p> <p>○児童が意欲的に漢字検定を受検できるように指導の工夫や言語環境の整備を図る。（漢字検定用のドリルの配付や、模試の実施、ポスターの掲示など）</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○年度末の校内調査において、「漢字の学習をがんばった」と回答する児童の割合を 85%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、「いろいろな教科などで、自分で考えたことを文章に表す活動をがんばった」と回答する児童の割合を 85%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【４－２ 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】</p> <p>○問題解決型学習を意識した指導に取り組む。</p> <p>○主に算数科において、習熟度別少人数授業や、個に応じた指導に取り組む。</p> <p>○池島タイムを実施し、児童の基礎学力の定着を図る。</p> <p>○授業用パソコンや一人一台端末を活用し、工夫した授業づくりに取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○年度末の校内調査において、「算数の文章問題をがんばりましたか」と肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、「授業は、工夫されていてわかりやすい」と回答する児童の割合を 85%以上にする。</p> <p>○習熟度別少人数授業や池島タイムに取り組み、児童の基礎学力の定着を図る。</p>	B
<p>取組内容③【５－１ 体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <p>○基本的な生活習慣を児童が身につけられるよう、教職員や委員会児童による呼びかけを行う。</p> <p>○体育授業を充実させるために、学年ごとに授業づくり・場づくりを記録する。</p> <p>○「なわとび月間」や「かけ足月間」を設定し、全校児童が運動に取り組む機会を設ける。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○基本的な生活習慣が身についたか、年 2 回実態調査し、分析した結果を全教職員に周知する。また、実態調査で「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか。」それぞれに対して肯定的な回答をする児童の割合を 65%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、「いろいろな運動に挑戦した」と回答する割合を 85%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

取り組み内容①について

- 読書や漢字練習をする朝学習の時間を設定し、言語能力育成のための取り組みを継続的に行った。
- 漢字検定ドリルの配布、模擬試験の実施、ポスターの掲示など学習の環境を整備したり、教職員が励ましの声かけを意識的に行ったりしたことで、児童の学習意欲の向上が見られた。その結果、校内調査における「漢字学習を頑張った」に対して、肯定的に回答する児童は88%となり、目標の85%を3ポイント上回った。
- 学習全般を通して自分の考えや学習の振り返りなどを文章にまとめる機会を多く設定した。型に当てはめて書いたり、選択肢から自分の考えに合うものを選んだり、友達の見解を真似て書いたりする経験を繰り返すことで、少しずつ自力で考えを書ける児童が増えている。その結果、校内調査における「いろいろな教科などで、自分で文章を考えたことを文章に表す活動がんばった」に対して肯定的に回答している児童は87%でとなり、目標の85%を2ポイント上回った。

取り組み内容②について

- 算数科などの学習で、導入時に本時の課題を共有し、そこからめあてをたてるなどする問題解決型学習を意識した指導に力を入れて取り組んだ。児童が自力解決のために考える時間をできるだけ長く確保できるような授業づくりが全校的に浸透してきている。また、授業の終わりには、練習問題にたくさんできるだけ多くの時間取り組めるよう工夫をした。その結果、校内調査では「算数の文章問題をがんばりましたか」に対して、肯定的に回答する児童は90%となり、目標の75%大きく上回っている。
- 視覚化を意識し、大型モニターにデジタル教科書を映して見せたり、パワーポイントを用いて活動の説明をしたり、授業づくりを工夫した。また、一人一台端末の積極的な活用を進めた。その結果、校内調査における「授業は、工夫されていてわかりやすい」に対して肯定的に回答する児童は92%となり、目標の85%を7ポイント上回っている。
- 池島タイムでは、デジタル教材の導入により児童の習熟に合った学習が進められた。また、復習プリントに取り組ませたことで、授業では気づかなかった児童のつまずきに気づくことが出来た。

取り組み内容③について

- 保健委員会・給食委員会児童による校内放送では、手洗いうがいの推進や栄養クイズなど工夫をした。また、月に一度、保健委員会による清潔調べでは、ハンカチ・ティッシュの携帯、早寝早起き、爪を切るなどの意識を高めるための声かけが行われた。そして、生活習慣が身につくよう実態調査を1学期と2学期にそれぞれ1度ずつ計2回実施した。また、その結果を教職員に周知した。2度目の実態調査における「昨日、早く寝た」「朝7時までには起きた」それぞれに問いに対して週平日5日のうち3日以上で肯定的な回答をした児童の割合は50.5%、72.6%であった。2度目の調査は冬場に行ったことを考慮する必要がある。
- 体育科授業の学年ごとの授業づくり・場づくりの記録を2学期に集計しファイル化している。
- 「なわとび月間」（大縄跳び）を1学期、「なわとび月間」（短縄）を2学期、「かけ足月間」を3学期に実施した。校内調査における「いろいろな運動に挑戦した」に対して肯定的に回答した児童の割合は89%と目標を4ポイント上回った。

次年度への改善点

取り組み内容①について

- 自分で考えたことを文章にまとめる機会を設ける際に、思考の観点や話型を提示する指導を継続し、児童が「自分の力で」自分の考えを文章にまとめられたと実感できるように工夫していく。また、フィードバックや評価方法を改善することで児童の自信につながるような指導を目指す。
- 全学年共通のハンドサイン・話型の指導に力をいれ、6年間の指導で自分の考えを伝える力を育成できるようにしていくとよいのではないかな。
- 漢字検定の学習はドリルのみならず、練習問題プリントなども用意して児童が自主的に取り組めるようにすることで、さらなる意欲の向上が期待できる。
- 池島タイムが教員の休憩時間(15:30～16:15)と重なっていることもあるため、基礎学力の定着をはかる時間の工夫が必要。

取り組み内容②について

- 問題解決型学習における文章題の読み方の指導を徹底し、児童が自力で解決できるようにしていく必要がある。また、話型などを取り入れるなどして、学校として「意見交流の仕方」の指導を確立し、6年間継続して指導できるような環境の整備が求められる。
- 職員や児童の人数の問題から、習熟度別少人数学習には取り組めていない。次年度以降も児童数の減少が懸念されるので、習熟度別少人数授業の取り入れ方・個に応じた学習の在り方については検討していく必要がある。

取り組み内容③について

- 来年度も生活習慣における実態調査をもとに、児童の実態に合わせた保健指導・食育指導を行っていく。今年度の課題改善に向けて、特に早寝早起きの必要性については養護教諭・栄養教諭だけでなく学級担任も日常的に指導していく。
- 過去の体育科授業づくり・場づくりの記録を参考に、より効果的な体育科の授業づくりを進めていく。
- 全校として取り組んだ体育活動の後は自ら進んで外に出て遊ぶ児童が多く見られたので、今年度取り組んだ実践事例をもとに、来年度さらに児童が意欲的に取り組めるような体育活動を検討していく。

大阪市立池島小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標				達成 状況
【学びを支える教育環境の充実】				
全市共通目標（小・中学校）				
○年度末の校内調査における「授業の中で学習者用端末を活用して学習している」の項目（協働学習支援ツール、デジタルドリルを含む）について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、 70%以上 にする。				
R4	R5	R6	R7	
93				
○ゆとりの日を毎週 1 回以上設定する。				
○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 100%にする。 （基準 2 とは、時間外勤務が年間 720 時間以下、月 45 時間を超える月数 6 月以下、月 100 時間を超える月数 0、前 2～6 か月の平均が 80 時間を超える月数 0）				
学校園の年度目標				
○年度末の校内調査における「学習者用端末を活用して発表することができますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上 にする。				
R4	R5	R6	R7	
86				
○年度末の校内調査における「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上 にする。				
R4	R5	R6	R7	
75				
○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、 <u>肯定的に回答する児童</u> の割合を 75%以上 にする。				
R1	R2	R3	R4	
82	72	76	72.1	
○年度末の保護者アンケートの「お子様との会話や学校からの手紙、連絡等で学校でのお子様の様子がよくわかりますか」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合				

B

を、90%以上にする。

R1	R2	R3	R4
			95

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6－1 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>○タブレット端末・一人一台学習者用端末を活用して、年に1つ以上スライドやカードを作成する活動をする。</p> <p>○プログラミング学習年間指導計画に沿って、各学年プログラミング学習を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○年度末の校内調査における「授業の中で学習者用端末を活用して学習している。」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、70%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「学習者用端末を活用して発表することができますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【9－2 教育コミュニティづくりの推進】</p> <p>○学校ホームページの日々の更新や学校だよりの配付等により、学校や児童の様子を伝える。</p> <p>○地域と合同の防災訓練やPTAと学校共催の福祉体験活動、ふれあいまつり等、保護者や地域とのつながりを持てる行事に参加する。</p> <p>○港区はぐくみネットによる授業を計画、実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○年度末の保護者アンケートにおける「お子様との会話や学校からの手紙、連絡等で学校でのお子様の様子がよくわかりますか」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【8－2 「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組】</p> <p>○毎週火曜日に朝の読書タイムを実施する。</p> <p>○図書委員会によるおすすめの本の紹介や毎週2回の図書館開放を実施し、本に触れる機会を多く持つことができるようにする。</p> <p>○図書の時間に図書館司書による読み聞かせを実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、<u>肯定的に回答する児童の割合を 75%以上</u>にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

取組内容①について

- 校内調査における「授業の中で学習者用端末を活用して学習している」の項目について、「毎日」「ほぼ毎日」と答える児童の割合は **93%**と目標を大きく上回った。使用しているものの内容としては、「心の天気」、「デジタルドリル」、「インターネット」、「プログラミングアプリ」「プレゼンテーション作成アプリ」などである。学習者用端末が児童の意識として、特別なものからいつでも使うことのできる道具へと変わってきていることがうかがえる。
- 校内調査における「学習者用端末を活用して発表することができますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は **86%**と目標を大きく上回った。高学年では、1人1スライドを作成し、最後に班で合わせたものを発表するなどの工夫をした。グループで1つのものを作り上げる達成感を感じられる活動になっている。低学年でも生活科の植物観察やおいもパーティーの様子や感想をスライドにするなど、多くの場面で活用することができた。
- 校内調査における「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は **75%**と目標を5ポイント上回った。低学年は、主に「viscuit」を使ってプログラミングの学習に取り組んだ。思い思いの世界を表現したり友だちと見せ合ったりしながら取り組んでいた。中高学年は、「scratch」や「Hour of Code」を活用して指導を行った。ただ、常に取り組んでいるものではないため、前回と比較すると数値は低くなっているといえる。

取組内容②について

- 校内調査における「お子様との会話や学校からの手紙、連絡等で学校でのお子様の様子がよくわかりますか」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合は **95%**と目標を5ポイント上回った。
- ホームページの更新は、学校長を中心に行っており、日々の学習の様子や行事の様子、学校で取り組んでいることが分かりやすく掲載されている。ホームページを保護者や地域の方に見ていただけるように、「学校だより」にQRコードとお知らせを載せている。
- 「学校だより」、「学年だより」については、毎月1度発行しており、町会の会議にも学校だよりを資料として持っていく配付している。それを町会ごとに各家庭に回覧してもらっている。地域の一員としての自覚を育むために、9月には池島地域に住む高齢者の方に向けて「敬老の日のお手紙」を書いた。11月には「スマイルフェスティバル」に参加し、保護者や地域の方に向けて合唱をした。また、今年度は運動会でも保護者参加型の競技を実施した。
- 福祉体験活動としては、6月に4年生が「車いす・高齢者疑似体験」を、2月に3年生が「盲導犬体験」を実施した。はぐくみネットの授業も2月に実施している。

取組内容③について

- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答した児童の割合は **72.1%**と目標を2.9ポイント下回った。
- 読書タイムについても設定しており、定期的に読み聞かせをしたり、テストが早く終わった児童や学習が早く終わったりした際などに本を読む機会を各学級設けている。ただ、行事等で読書タイムを十分に設定できていない部分もあった。
- 図書館司書や担任による読み聞かせは実施できた。
- 毎週火曜日は図書館司書が終日いるため、図書室を終日開放している。読書週間として図書室の開放は実施できたが、図書委員会として週に1回の開放を実施することはできなかった。ただ、図書委員児童と図書館司書によって、各学年の児童におすすめの本や課題図書の紹介、季節や年中行事にあった本の提示など、本に親しんでもらうための取り組みが多く行われた。

次年度の改善点

取組内容①について

- 来年度テスト導入予定の児童用デジタル教科書を活用することによって、学習者用端末の活用はさらに増えていくと予想される。その中で、スライドやカード等の発表資料作成の時間を計画的に確保していく。
- 「プログラミング」や「scratch」についてさらに知りたい児童もいるので、プログラミング関係の本を図書室に増やしていく。

取組内容②について

- 地域と連携した行事や取り組みを来年度も計画して実施していく。

取組内容③について

- 図書室の週2回の開放について、各学級週に1度は図書室を利用しているということもあるので、開放は図書館司書主導の週1回にする。
- 来年度も読書タイムの時間を確保していく。